

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2465 号

Impact of the village health center project on contraceptive behaviors in rural Jordan: a quasi-experimental difference-in-differences analysis

ヨルダン農村部における村落保健センタープロジェクトの避妊行動に関するインパクト：疑似実験法による差分の差分分析

駒澤 牧子（こまさわ まきこ）

博士（医学）

#### 論文内容の要旨

ヨルダン農村部においては、適切な家族計画の普及がいまだに公衆衛生上の重要な課題となっている。このため国際協力機構は村落保健センター（VHC）における家族計画サービス提供能力を強化するプロジェクトを実施した。本研究では、同プロジェクトのインパクトを避妊行動及びアプローチの有効性の観点から検証した。

対象プロジェクトの主な介入は、施設アプローチと地域アプローチの2種で構成された。介入対象はイルビッド県の5つのプロジェクト対象VHCで、介入期間は2016年10月からの13か月であった。本研究では介入前と介入後の差を介入群と対照群で比較する差分の差分（DID）分析を用いた。またプロジェクトのアプローチの有効性を検証するため多変量解析を行った。分析対象は再生産年齢（15～49歳）の有配偶女性とし、介入群・対照群を5村ずつ2段階抽出法によりサンプリングを行った。直接効果指標として、VHCサービスの利用、保健教育活動、女性の健康に関する情報源に関する9変数を、またインパクト指標として近代的避妊法の実践、伝統的避妊法の実践、夫の避妊への同意の3変数を設定した。

全有効回答者は2,061人で、これらの内、避妊が必要な人の割合は83.8%であった。DID分析の結果、介入地域は対照地域と比較して直接効果指標の9変数の内、6つの変数で統計的に有意に向上が見られた（効果度：+0.4～11.5 pp）。インパクト指標についてもDID分析により期待された効果が見られたが、統計的に有意な差はなかった。多変量解析の結果、近代的避妊法の実践は、5つの直接効果指標と有意な関連が見られた（VHCにおける避妊具の取得、VHCにおける教育活動参加、地域における健康イベント参加、民間医療機関でのカウンセリング、テレビの情報）。夫の避妊への同意も同様な正の傾向が見られた。他方、伝統的避妊法の実践についてはテレビの情報のみ関連が見られた。

以上の結果より、本プロジェクトは、近代的避妊法の実践及び夫の避妊への同意に効果があったといえる。また2つのアプローチの融合は、伝統的避妊法から近代的避妊法への転換を促進する効果があることが示唆された。